

● 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日 定時株主総会・期末配当 中間配当(実施する場合)	毎年12月31日 毎年6月30日
公告方法	電子公告の方法により、当社ホームページに掲載いたします。(http://www.toaoil.co.jp) ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページ <http://www.toaoil.co.jp>

当社はホームページを重要な情報発信源のひとつとして認識しており、決算情報や環境・社会貢献活動などを適宜掲載しております。ぜひ、ご覧ください。



※ この報告書は、環境に優しい植物油インキを使用し印刷しています。



株主の皆様へ

第139期中間ご報告

平成23年1月1日 ▶ 平成23年6月30日

Contents

株主の皆様へ

四半期連結財務諸表

トピックス

会社概要

株式情報

株主メモ

 東亜石油株式会社

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当社並びに当社グループの第139期上半期（平成23年1月1日～平成23年6月30日）における営業の概況をご報告申し上げます。

代表取締役社長

山本 裕



営業の概況

当上半期におけるわが国の経済は、一部で持ち直しの動きが見られていたものの東日本大震災の深刻な影響により大企業・製造業の景況感が5四半期ぶりにマイナスになりました。震災後の鉱工業生産は一般の想定を上回るペースで改善しており、景気はV字回復するとの見通しも出てきておりますが、夏場の電力不足懸念、欧米における先行き不透明感や中国経済に減速感が見られることなど国内外の懸念材料が山積しており、国内経済は楽観できない状況が続くものと思われまます。

石油業界においては、平成23年上半年（平成23年1月～6月）は、震災後火力発電所の稼働が高まったことから電力用C重油の需要増加に伴い販売数量が前年同期を上回ったものの、他の油種の販売では軒並み前年同期比で減少し、燃料油合計では前年同期販売実績を下回ることになりました。全体としては、国内石油需要の構造的減少が継続している状況に変化はありません。

当社グループといたしましては、引き続き石油事業並びに電気事業を通じて、可能な限り復旧・復興に向けて支援を行っていくとともに、更なる付加価値最大化およびコスト競争力強化に向けて努力していく所存であります。

当第2四半期連結累計期間において、京浜製油所の各装置は順調に操業を続け、原油および原料油処理量は、4,875千kl（前年同四半期比 29.2%増）となりました。また、株式会社ジェネックス水江発電所は、順調に操業を続け電力逼迫下最大限の発電を行いました。

当第2四半期連結累計期間の業績に関しては、第1四半期同様製品市況が維持され原油精製委託契約に基づく精製マージンが堅調に推移しました。一方で発電設備に供給される燃料コストは前年同四半期に比べ上昇しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高15,974百万円（前年同四半期比 7.1%減）、営業利益931百万円（前年同四半期比2.5%減）、経常利益743百万円（前年同四半期比25.8%増）、四半期純利益352百万円（前年同四半期比80.5%増）となりました。

当社は、石油事業の大きな環境変化に対応すべく京浜製油所扇町工場（当社の親会社である昭和シェル石油株式会社が所有し、当社が賃借・運営）での原油処理を本年9月末に停止し、同工場を閉鎖いたします。一方、操業を継続する京浜製油所水江工場では、更なる競争力強化のための精製設備の再構築を鋭意推進しており、その一環としてベンゼン対策設備（スルフォラン装置）の建設が本年11月中旬の完工を目指して進行中であります。

同時に、TPM活動（全員参加の生産保全活動）やCCPC（コストカットプロモーションコミッティー）の活動、並びにトップダウンによる経費削減活動を含めて、全社一丸となりコスト削減を強力に推進しております。

なにとぞ、株主の皆様におかれましては、企業価値を高めるための当社グループの以上のような姿勢に対しまして倍旧のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

経営理念

Management Philosophy

01

HSSE（安全・環境・危機管理・健康）の確保を経営の基盤とする。

02

創意工夫と技術革新により常に改善を進め、持続的発展をはかる。

03

グループ及び協力会社との協力関係を一層促進し、相互の繁栄をはかる。

04

人材・能力の開発に努め、相互理解と信頼に基づく活力溢れる人間集団を形成する。

05

公明正大で透明性のある経営を行い、社員が会社の発展と明るい未来に誇りと喜びを語る企業風土をつくる。

東亜石油グループはHSSE（安全・環境・危機管理・健康）の確保を基本として社会・環境と調和し、さらに地域社会と共生を図りながら、企業活動を行っていくことが長期にわたって持続可能な発展を遂げるために必要であると考えています。私どもは今後もこの経営理念のもと、高い品質の石油製品と電力を安定的に皆様の元にお届けしていきます。



▲ 本年9月末に原油処理を停止する京浜製油所扇町工場

● 連結貸借対照表

単位：百万円

科目	当第2四半期末 平成23年6月30日現在	前連結会計年度末 平成22年12月31日現在
資産の部		
流動資産	52,281	66,130
固定資産	59,775	60,422
有形固定資産	55,538	56,745
無形固定資産	164	207
投資その他の資産	4,072	3,469
資産合計	112,056	126,552
負債の部		
流動負債	72,659	87,699
固定負債	15,397	14,821
負債合計	88,057	102,521
純資産の部		
株主資本	21,783	21,928
資本金	8,415	8,415
資本剰余金	4,687	4,687
利益剰余金	8,684	8,829
自己株式	△ 3	△ 3
評価・換算差額等	147	129
その他有価証券評価差額金	147	129
少数株主持分	2,068	1,973
純資産合計	23,999	24,031
負債純資産合計	112,056	126,552

(注) 百万円未満の端数は切り捨てて表示しております。

● 連結損益計算書

単位：百万円

科目	当第2四半期(累計) 平成23年1月1日から 平成23年6月30日まで	前第2四半期(累計) 平成22年1月1日から 平成22年6月30日まで
売上高	15,974	17,195
売上原価	14,233	15,452
売上総利益	1,741	1,743
販売費及び一般管理費	810	788
営業利益	931	954
営業外収益	21	27
営業外費用	208	390
経常利益	743	591
特別利益	2	74
特別損失	—	167
税金等調整前四半期純利益	746	498
法人税、住民税及び事業税	324	30
法人税等調整額	△ 28	237
法人税等合計	295	268
少数株主損益調整前四半期純利益	451	—
少数株主利益	99	35
四半期純利益	352	195

(注) 百万円未満の端数は切り捨てて表示しております。

● 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	当第2四半期(累計) 平成23年1月1日から 平成23年6月30日まで	前第2四半期(累計) 平成22年1月1日から 平成22年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,418	418
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,614	△ 6,475
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,746	5,550
現金及び現金同等物の増減額	57	△ 506
現金及び現金同等物の期首残高	4,935	5,468
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,993	4,961

(注) 百万円未満の端数は切り捨てて表示しております。

CHECK POINT

総資産

総資産は112,056百万円となり、前連結会計年度末に比べ14,496百万円の減少となりました。これは主に立替揮発油税等が減少したことによるものです。

負債

負債は88,057百万円となり、前連結会計年度末に比べ14,463百万円の減少となりました。これは主に未払揮発油税等が減少したことによるものです。

純資産

純資産は23,999百万円となり、前連結会計年度末に比べ32百万円の減少となりました。これは主に四半期純利益ならびに少数株主持分の増加を配当の支出が上回り利益剰余金が減少したことによるものです。

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期連結累計期間と比較して5,000百万円の増加となりますが、これは修繕引当金の増加、売上債権・未払費用の減少によるものです。投資活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期連結累計期間と比較して4,861百万円の増加となりますが、これは有形固定資産の取得の減少によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の減少に加え、長期借入金の返済などの支出により3,746百万円の純支出となりました。

● 連結子会社の概要

商号	東亜テックス株式会社
所在地	神奈川県川崎市川崎区
資本金	40百万円
当社出資比率	100%
主な事業内容	当社の構内作業の受託等
商号	株式会社ジェネックス
所在地	神奈川県川崎市川崎区
資本金	2,800百万円
当社出資比率	60%
主な事業内容	東京電力株式会社に対する電力卸供給および当社に対する電力・蒸気の供給等

集約化と高付加価値へ加速！ **アジア最強の製油所を目指して**

ベンゼン対策設備の建設工事 水切り・据付工事が進行中

当社は、本年予定されている京浜製油所扇町工場の閉鎖への対応および京浜製油所水江工場の更なる競争力強化を図るため、ガソリンのベンゼン対策設備（スルフォラン装置：下記参照）の建設を決定し、11月中旬の完工を目指して工事が進行中であります。



▲ C-1801水切り風景

1 スルフォラン装置とは？

自動車ガソリンの品質規格（ベンゼン1%以下）に適合するために、ガソリン原料油中のベンゼンを低減する装置であり、京浜製油所扇町工場にも同様の装置が稼働しております。しかし、本年9月末に扇町工場の原油処理を停止し、その後、閉鎖することとなり、同様の装置を水江工場にも建設する必要がありました。

2 工事の進捗状況

スルフォラン装置建設工事は、本年3月1日の杭打ち開始後、土建工事を中心に進めてきましたが、5月には回転機器を皮切りに機器の搬入・据付工事を開始し、6月5日、12日には静機器の「水切り」（海上輸送機器の陸揚げ：塔8基、槽6基）を行いました。両日もとも天候に恵まれ、計画どおり無事に水切りを完了することが出来ました。また、翌日からは水切りした機器を順次据付けました。

今回、水切りした最大の機器はC-1801（リフォーマート スプリッター）であり、内径2.7m、高さ約49mの塔となっています。また、6月上旬の既設装置との繋ぎ込み用の配管枝出し（Tie-in）工事も無事に完了し、6月下旬より配管敷設工事が始まりました。11月中旬の完工まであと2ヶ月となりましたが、無事故無災害で工期内に完遂する様、気を引き締め業務を遂行していく所存であります。



▲ スルフォラン装置外観（7月下旬）

● 会社の概況

商号	東亜石油株式会社
英文商号	TOA OIL CO.,LTD.
設立	大正13年2月6日
資本金	8,415百万円
従業員	545名（連結619名）
敷地面積	108万㎡
本社	〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町3番1号 TEL：044-280-0600

● 役員

代表取締役社長	山本 裕
取締役	淡島 敬一
取締役	山崎 恒
取締役	白木 郁
取締役	大久保 和弘
常勤監査役	柴田 憲一
監査役	中村 新
監査役	牧田 千明

● 株式の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式総数	124,435,000株
株主数	8,674名

● 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
昭和シェル石油(株)	62,344	50.1
東京海上日動火災保険(株)	2,184	1.8
東亜石油従業員持株会	1,833	1.5
角田 博	1,600	1.3
三井住友海上火災保険(株)	1,593	1.3
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4)	1,429	1.1
(株)損害保険ジャパン	1,292	1.0
日本証券金融(株)	936	0.8
ロイヤルバンクオブカナダ(チャネルアイランド)リミテッドレジアカウト	800	0.6
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエクイティインベストメンツ(株)信託口)	750	0.6

● 株式分布状況

